

特集

気象条件が与える影響

今年の夏は世界中が異常気象に揺れました。欧州では記録的な猛暑で死者が続出、殊にフランスでは閣僚の進退問題が浮上し、スペイン・ポルトガルでは山火事が大発生しました。また、中国では大干ばつが発生、農作物に大きな影響が出ています。

また、日本においては、東日本を中心に10年ぶりの冷夏に見舞われ、石川県においても7月の平均気温は22.8度（金沢市）の低い記録となりました。

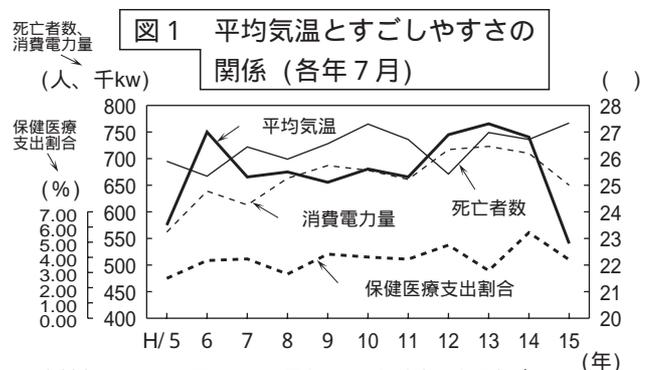
このような気象条件、特に気温が与える影響を1993（平成5）年7月～2003（平成15）年7月の県内の様々なデータ - を通じて比較検証してみました。

1 涼しい夏はすごしやすい？

表1 気象データ

金沢市7月データ	平均気温	平均相対湿度 %	最多風向	日照時間時間	降水量 mm
H 5	23.5	82	東北東	89.2	293
H 6	27.0	76	西南西	209.3	65
H 7	25.3	79	南西	135.4	505
H 8	25.5	74	東北東	218.5	42
H 9	25.1	77	東	134.8	351.5
H 10	25.6	81	東	143.4	127
H 11	25.3	75	東	144.3	136.5
H 12	26.9	72	南西	229.4	105.5
H 13	27.3	73	西南西	254.3	66
H 14	26.8	77	東	191.9	462.5
H 15	22.8	82	東北東	75.0	226.5

資料出所：金沢地方気象台（以下気温データはすべてこれによる。）



資料出所：石川県、北陸電力㈱、総務省（金沢市データ）

平均気温と日照時間は、1993（平成5）年と2003（平成15）年の低温・日照不足が顕著です。そのため、2003（平成15）年7月のルームエアコンの小売価額の動きを見ると前月比 - 4.9%、前年同月比 - 6.3%^(注1)となり、出荷台数^(注2)も前年同月比で - 59%と冷夏の影響を受けています。それに連動して消費電力量も減少しており、気温との密接な繋がりが見て取れます。

また、家計における医療保険の動きは医療保険の制度改革が行われたこともあり一概には言えませんが、涼しいほど過ごしやすく負担が減っているように見受けられます。

死亡者の動きをしてみると、予想に反して夏らしい夏であった1994（平成6）年、2000（平成12）年において死亡者数が少なくなっています。

注1：総務省：小売価統計調査より（金沢市、七尾市、小松市、輪島市の平均値） 注2：石川県電気商業組合調べ（家電流通協議会加盟7社製品に限る。）

2 農産物に与える影響

今年9月15日時点の全国の水稲の作況指数^(注3)は“平成の米騒動”と騒がれた1993（平成5）年まではいかないものの、92の「不良（91～94）」となり、6月中旬からの日照不足と7月の低温の影響が強く表れた格好になりました。石川県については96の「やや不良（95～98）」となり同様に影響を受けています。

注3：10aあたりの平年収量に対する収量予想比率

図2 都道府県別平成15年産水稻の作柄（平成15年9月15日現在）

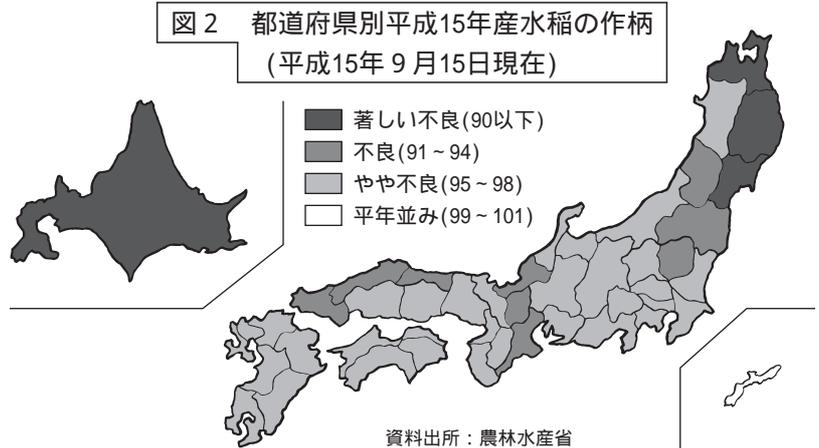


表2 石川県の水稲収穫量及び作況指数

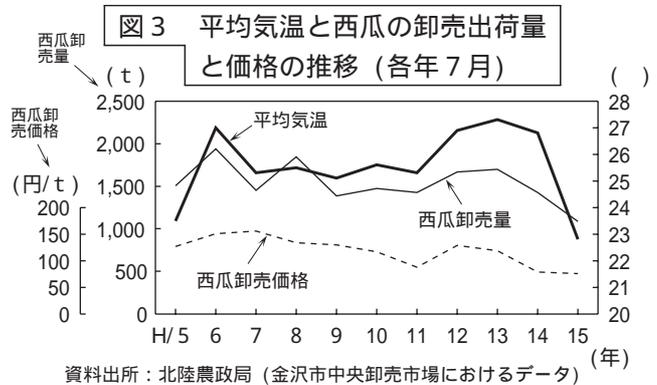
	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15
収穫量 (t)	150,600	181,800	166,900	162,300	153,100	136,300	143,700	141,500	139,600	138,900	-
作況指数	88	103	98	104	99	96	102	101	102	102	96

H15の作況指数については9月15日現在のものである。

資料出所：北陸農政局

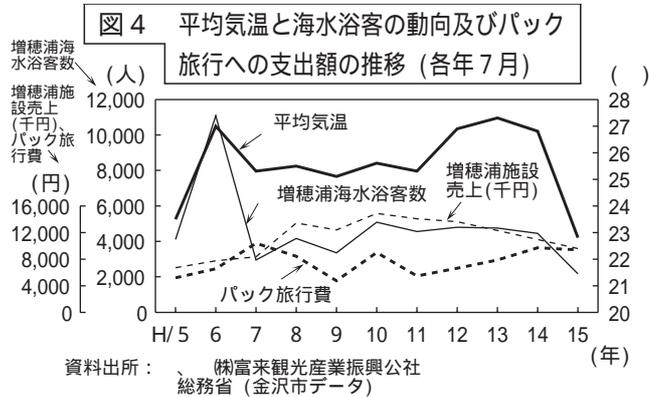
また、7月の出荷量の大半を地物で占める西瓜の出荷量と卸売価格の動向は気温の推移に連動していることがはっきり見て取れ、今年6月～8月の販売金額は前年同月比で71%の8億8千7百万円、1kgあたりの単価も前年同月比で78%の64円となっています。

このような、農作物の品薄感から農作物の盗難が全国的に相次ぎ、本年1月～8月からの発生件数は昨年同期と比較すると156件(48.1%)増加しています。



3 レジャー動向

各項目の推移を見てみると、海水浴客は気温に大きく影響を受けていると言えそうですが、増穂浦施設利用者には海水浴客以外の人も含まれています。また、バック旅行も天候以外の他の要因(為替相場、連休、国際状況など)に左右されることもあり、直接的関連性は見られません。

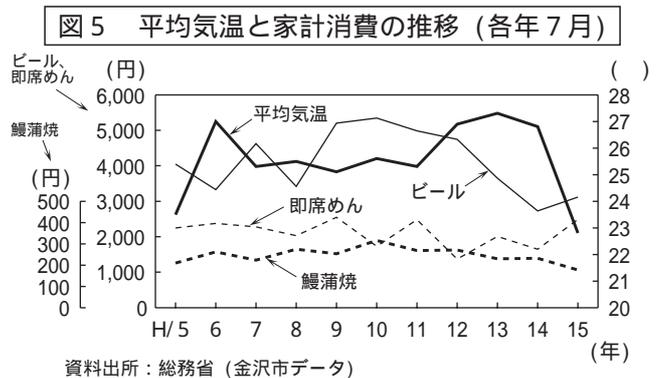


4 売上高と消費動向

夏季はビール業界のかき入れ時になりますが、2003(平成15)年7月の全国の出荷数量(注4)は前年同月比で-13.6%となり、冷夏・長雨の影響を強く受けた格好になりました。

しかし、金沢市の家計に占めるビールの消費動向は意外にも気温とあまり関係していないことが見て取れます。

これは、最近では発泡酒の登場やワインブーム等のために家庭でのビールの消費量自体が減っていることもあると思われます。



その他、熱いお湯で作る即席めんは涼しい夏に歓迎されるらしく、今年7月の消費金額が前年より増えています。また、年間を通じて7月に一番消費の多い鰻の蒲焼も熱い夏のほうが消費額が多く、鰻の蒲焼に夏を乗り切る活力を求める傾向は変わらないと言えそうです。

注4：正式には課税移出数量(ビール酒造組合調べ：大手5社)

表3 県内大型小売店売上高の推移 (各年7月)

	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15
小売店調済前年同月比	0.6	0.8	1.2	6.3	0.9	4.8	3.1	0.9	2.4	3.7	3.0
小売総額 (100万円)	24,988	25,018	26,119	27,128	30,459	32,284	31,484	31,127	30,687	30,220	29,359

資料出所：北陸財務局

大型小売店の売上高はこの11年間に於いて、金額自体はやや伸びていますが、新店舗等を調整した前年同月比は減少傾向にあります。これは、気象条件というよりはデフレによる長引く不況の影響を受けていると言えるでしょう。